

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公表番号】特表2002-538778(P2002-538778A)

【公表日】平成14年11月19日(2002.11.19)

【出願番号】特願2000-596122(P2000-596122)

【国際特許分類】

C 1 2 M 1/00 (2006.01)

C 0 7 K 1/02 (2006.01)

C 1 2 M 1/02 (2006.01)

C 1 2 M 1/12 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 P 21/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 M 1/00 A

C 0 7 K 1/02

C 1 2 M 1/02

C 1 2 M 1/12

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 P 21/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月12日(2006.9.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1つのシステムチャンバ(12)と1つの供給チャンバ(10)とを備えたケーシング(1)を有し、システムチャンバ(12)が生化学反応のあいだ産生システムを収容し、供給チャンバ(10)が生化学反応のあいだ供給液を収容し、システムチャンバ(12)と供給チャンバ(10)とが一枚の半透膜によって分離されている無細胞ポリペプチド生合成の単一用途のための使い捨て生物反応モジュールであって、前記ケーシング(1)が、それぞれ環状の緊着帯(18)を有する少なくとも2つのチャンバ部(3、5)を有し、該環状の緊着帯(18)のあいだに1枚の半透膜(7)が該膜(7)の周辺外周帯(14)を挟着するシール手段(9)によって密閉して緊着固定され、システムチャンバ(12)がシステムチャンバ部(5)と半透膜(7)により区画され、前記供給チャンバが供給チャンバ部(3)と半透膜(7)により区画されてなるモジュール。

【請求項2】 前記チャンバ部の一方(5または3)が半透膜(7)の緊着固定のための緊着帯(18)に1本の周回溝(13)を有し、他方のチャンバ部(3または5)が溝(13)に嵌入する突出リップ(16)を有し、膜(7)をチャンバ部(3、5)のあいだに緊着固定された周辺外周帯(14)のところで溝に押し込む請求項1記載のモジュール。

【請求項3】 1つのシステムチャンバ(12)と1つの供給チャンバ(10)とを備えたケーシング(1)を有し、システムチャンバ(12)が生化学反応の間中における産生システムを収容し、供給チャンバ(10)が生化学反応の間中における供給液を収容し、システムチャンバ(12)と供給チャンバ(10)とが一枚の半透膜によって分離さ

れている無細胞ポリペプチド生合成の単一用途のための使い捨て生物反応モジュールであって、

前記ケーシング(1)が、少なくとも2つのチャンバ部(3、5)を有し、該チャンバ部のあいだに1枚の半透膜(7)が該膜(7)の周辺外周帯(14)を挟着するシール手段(9)によって密に緊着固定され、システムチャンバ(12)がシステムチャンバ部(5)と半透膜(7)とによって限界を定められ、前記供給チャンバが供給チャンバ部(3)と半透膜(7)とによって限界を定められており、

前記少なくとも1つの供給チャンバ(10)および/またはシステムチャンバ(12)が、1つの磁気攪拌素子(17)を有するモジュール。

【請求項4】 前記チャンバ部(3、5)の少なくとも一方が、半透膜(7)に対向した壁面(38、39)にチャンバ部(3、5)によって囲繞されたチャンバ(10、12)に注入するための1つの注入口(40、41)を有する請求項1、2または3記載のモジュール。\_\_

【請求項5】 前記半透膜(7)が透析膜である請求項1、2、3または4記載のモジュール。\_\_

【請求項6】 前記ケーシングが1つのシステムチャンバ(12)と該システムチャンバに隣接する2つの供給チャンバ(10、11)とからなり、該供給チャンバがシステムチャンバ(12)から第1および第2の半透膜(7、8)によって分離され、ケーシング(1)が2つの供給チャンバ部(3、4)を有し、第1の半透膜(7)がシステムチャンバ部(5)と第1の供給チャンバ部(3)とのあいだに緊着固定され、かつ第2の半透膜(8)がシステムチャンバ部(5)と第2の供給チャンバ部(4)とのあいだに緊着固定されている請求項1、2、3、4または5記載のモジュール。\_\_

【請求項7】 請求項1、2、3、4、5または6記載のモジュールを用いた生化学反応を実施する方法であって、

前記供給チャンバ(10)内の供給液が、生化学反応のあいだ、外部の圧力によって加圧されず、その結果、供給チャンバ(10)とシステムチャンバ(12)とのあいだの分子交換を実質的に拡散に基づいて行なう方法。\_\_